

INUシャドウイング・プログラム 研修報告書

震地区運営支援部学生支援グループ（大学院担当）

藤井 聖子

（1）研修概要（研修スケジュール、派遣先、調査テーマ等）

INU 加盟大学であるマルメ大学（スウェーデン）にてシャドウイング研修を行った。

○派遣先：マルメ大学（Malmö university）

○研修日程：2018年11月12日（月）～11月16日（金）

○研修目的：下記事項について学ぶことを目的とした。

- ・外国人受験生への広報・入試をどのように実施しているのか。
- ・学生間で問題が起きた場合、解決をどのように行っているのか。
- ・外国人留学生の抱える悩みや文化的な衝突などはあるのか、またそれらにどのように対処しているのか。

○研修スケジュール

Monday November 12

10:00-11:00 Meeting with Charlotte kipowski, Head of Student Centre.

11:00-12:00 Campus tour, with Rebecca Arklöf.

12:00-13:30 Lunch with Karin Frydenlund, Head of International Office.

13:30-14:30 Meeting with the International Marketing and Recruitment-team,
Samantha Savage and Hanna Wiren

Tuesday November 13

09:30-10:00 'Fika' with Jeanette Wahlberg, HR and Violeta Gamalan, Financial
Department.

10:00-11:00 Meeting with the Admissions Office.

11:00-12:00 Meeting with Student Health Services.
Olof Samuelsson, Student Counsellor.

12:45-14:45 Visit to the Faculty of Health and Society (including lunch).
Mariette Bengtsson, Director of Studies,
Marianne Kisthinos, International Academic Coordinator and
Viktoria Supranovich, International Administrative Coordinator.

Wednesday November 14

10:00-11:00 Meeting with the Student Union, Yuliyana Konstantinova and

Nina Huovinen. Meeting at the Student Union's offices.

11:00-12:00 Meeting with incoming exchange students-team,
Kajsa Werlestål Khanye and Jelena Crnoglavac.

12:15-12:45 Join us for the lunch choir at Malmö Live.

13:00- Sightseeing in Malmö with Rebecca Arklof.

Thursday November 15

11:00-12:00 Meeting with Erasmus Student Network (ESN) at ESN's offices.

12:30-14:30 Lunch and then tour of the Orkanen Library
with Linda Karlsson who visited Hiroshima in October 2018.

Friday November 16

09:30 Friday morning breakfast and farewell
with the International Office-team



(2) 研修の所感

マルメ大学は教職員にも学生にも居心地の良い空間をつくることを重視している、と感じた。学生に対しては、大学構内のいたるところに机、椅子、電気コンセントがあり、学生たちが教科書やPCを開いて黙々と勉強している姿や、熱心に議論を交わしている様子が見られた。場所によって、しっかり腰を据えられるタイプの椅子であったり、長居を想定していない、あるいはさせないためのハイチェアが設置されていたりと、興味深かった。



また、廊下・ホールの一角に職員のカウンターが用意されており、学生がわからないことがあると気軽に確認しに行けるようにされていた。イメージとしてはコンシェルジュのようなもので、様々な部署の担当者が時間交代で立っている、とのことであった。これにより学生と職員の距離が近づき、悩みを抱え込みにくくなるという長所があるように感じた。

教職員に対しては、飲食自由の空間が各フロアに用意され、軽食やコーヒーサーバー、水などが無料で提供されていた。自然と人が集まり、コミュニケーションを取る場が出来上がっていた。そして、スウェーデンでは何よりも「FIKA（お茶をすること）」を大事にしている、とのことで、午前9時半から10時、午後3時から3時半はほぼ全員が集まってお菓子を食べながらコーヒーを飲んでいた。この「FIKA」の時間に教職員は互いにプライベートの雑談や仕事上の不安・不満・悩みの相談を行っており、円滑な人間関係を築くのに一役買っているようだ。実際、職場の雰囲気はとても良好であると感じた。

また、昇降式のデスクを導入しており、立って、あるいは座って仕事するなど、個々人の体格や体調、好みに応じてデスクの高さを変えていた。オフィスによっては個人のデスクを設けず、その日その日の気分によって窓から景色が見える席、円いデスクの席など自由に選べるようになっていた。個人の荷物はロッカーに入れ、職場には完全に共用の物しか置かれていないため、効率の良い空間になっていた。



マルメ大学の居心地の良い空間づくりについては、学生・職員のためだけでなく、広島大学の国際的なレピュテーション向上にも繋がると思うので、ぜひ取り入れたい。

(3) 自身の能力向上について

この研修を受けることにより向上したと感じるのは「語学力」と「度胸」である。

当該研修では日本を発つところから戻るところまで一人きりである。旅行にて一人で海外に飛ぶことはあったが、緊張感が当然のことながら全く違う。飛行機に乗り損ね、研修を始めることすら出来ないことがあれば、また、研修中に英語がわからずまともな応答が出来ないなどということがあろうものならば広島大学の信用を失う、という心構えで臨ん

だ。

毎日の研修は 15:30 から 16:00 までには終わっていたが、その後はホテルに帰って学んだことの復習、そして翌日の予習と、一日中英語で思考していた。研修内容は、マルメ大学ではどのようなことを実施しているか、という紹介を各担当者から受け、それに対する質問をその場で行い、逆に広島大学ではどのように取り組んでいるのかという質問を受け、議論していく、というものであった。いくら準備をしようとも、当然相手より思いもよらない質問を受けるが、マルメ大学の方々は私のつたない英語を辛抱強く聞いてくださり、こちらの意図するところを汲み上げてくださった。この「聞いてもらえる、理解しようとしてくれている」と感じることで、間違えることを恐れず考えを発することが出来た。

以前、広島大学説明会のためにインドネシアへ出張したことがあるが、その時は英語に堪能な方と複数人での出張であったため、頼ることが、厳しく言い換えれば甘えることが出来る状況であった。この時と比較すると、自分の英語能力の成長は計り知れない。

余談ではあるが、研修の 2 週間前に友人の結婚式がイギリスで執り行われたため、休暇からそのまま研修に行かせていただいたのであるが、休暇中に私は財布を掏られてしまっていた。この体験をマルメ大学の方々に話すことでかなり早く打ち解けることが出来たように感じた。

(4) 研修で得た情報・知識等について (調査テーマを中心に)

○入学試験実施について

資格審査のみであり、筆記試験は実施していない。

⇒面接や PSYCHOLOGICAL TEST により、入学に足る資質があるかを判断する。
高校で何を学んだのか、何をしてきたのかという経験が全てと言えるそうで、スウェーデンの学生は早くから「自分は何をしたいのか」を意識するそうだ。

○学生募集方法について

・デジタルマーケティング

⇒Face Book や Instagram といった SNS を用いてマルメ大学を紹介していく、という手法を最近取り入れた、とのこと。SNS は大多数の学生も使用しているため、マルメ大学のアカウントを学生がフォローすることで若年層に認知されていく。マルメ大学でのイベントの様子や普段の学生の様子もアップされており、親しみやすさを感じられた。

⇒インターネットで「Bachelor」という単語を検索した場合、マルメ大学がトップに出てくるよう、サーチエンジンと契約を交わしている。高校生が大学進学に向けて動き出す 10 月から 1 月までの 4 か月の契約だが、始めてから出願者が増えた

そうだ。(契約金額や、具体的な出願者人数の推移を尋ねたが、即答できない、とのことであったので、あくまで担当者の所感である。)

- 大学検索エンジンの利用

大学でどのようなことが学べるか等を検索できるもの。大学が各検索エンジンに登録する必要がある。これに登録することにより、世界中の高校生・大学生等の目に触れる機会を得ている。

⇒Education.com : <https://www.education.com/>

⇒Study portals Masters : <https://www.mastersportal.com/>

⇒Findamasters : <https://www.findamasters.com/>

⇒Masterstudies.com : <https://www.masterstudies.com/>

○学生へのサポート体制について

- 諸外国からの留学生が多くいるマルメ大学では、文化の違いによる学生間の衝突をさけるために、スウェーデン人学生に対して、他国の文化・風習についてレクチャーを行っている。
- マルメ大学は地元から進学してくる学生だけでなく、スウェーデン各地から学生が集まっているため、留学生だけでなく、スウェーデン人学生も孤独感を抱くことが多いそうだ。この解消のために、ヨーロッパへの短期旅行等のアクティビティを計画・提供している。
- また、学生による活動もさかんであり、学生会館では毎週末のようにイベントが開催され、授業内容や履修に関する相談を受け付けるなど、学生が主体となって学生を助ける運動がなされていた。
- カウンセラー6名と看護師が1名、Public Health Coordinator 1名が常駐しており、学生の様々な悩みをきいている。彼らに相談するには、1) website から予約、2) 9時~11時の間の電話相談、3) 常設のカウンセリングルームに行く、という3つの方法がある。孤独感からアルコールやドラッグに走る学生も多いそうで、市民病院を紹介することもある、とのことであった。



カウンセリングルーム待合

(5) 本学への還元・活用について

今回の研修にてお話しする機会のあったマルメ大学の教職員全員が英語に堪能であり、学生担当だから、財務担当だから、という差はなかった。マルメ大学から本学へ研修の依頼が来たとき、そしてその希望先が国際系ではなかったとき、本学は研修の受入れが可能なのか？受入れたとして、質の高い研修内容を提供できるのか？と自問した。もちろんヨーロッパという地域性が多言語能力の育成に大いに影響していることは理解しているが、本学でも国際系に限らず、学生系や総務・広報担当に今よりも更に英語を使用できる人材を配置していくべきであると強く感じた。

また、マルメ大学で最も感銘を受けたのは上記「○学生へのサポート体制について」で述べた、他国の文化・風習についてのレクチャーを実施していること、であった。これまでは、異国である日本に来ている留学生たちの不安解消・サポートはどうすれば良いか、という考え方をしていたが、そうではなく、留学生とともに大学生活を過ごすこととなる日本人学生のサポートをするべきなのではないか、という考えに至った。

広島大学に通う学生のおよそ 9 割が日本人である。そして大学に入る前に外国人に関わったことのある日本人学生は少ないことと思う。不安や悩みを抱えているのは留学生だけではなく、日本人学生も同様である。新入生であれば授業についていけるだろうかという不安を抱えた学生や、見知らぬ土地での一人暮らしを始めたばかりという状況にある学生もいる。その状況では異国から来た留学生と友人関係を築きたくとも難しいのではないだろうか。勇気をだして会話したとして、言葉や所作の意味合いの違い、受け止め方・遣い方によるすれ違いが生じることもあるかもしれない。この可能性を低くするためにも、外国人留学生を受け入れる側である広島大学、ひいては日本人学生が事前に異なる文化に対する準備（留学生が多いアジア圏の国の文化・風習の紹介等）をする必要があると考える。

(6) 本研修に対する評価

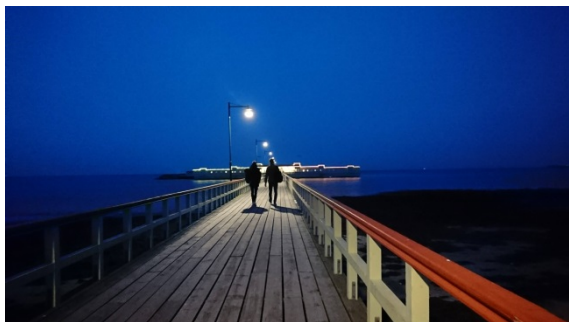
マルメ大学での研修により、語学力の向上だけではなく、新たな考え・視点を得ることが出来たと感じている。広島大学職員として、今後の働きに反映させていきたい。また、多くの職員にぜひ本研修に行くよう勧めたい。

(7) 謝辞

最後に、この研修を勧めてくださった人事グループの長谷川様、INU への書類提出や各種手続きを行ってくださった国際交流グループの皆様、研修で不在の間に業務のサポートをしてくれた大学院担当のスタッフに感謝いたします。

そして、貴重な時間を割いて素晴らしいプログラムを提供してくださったマルメ大学の

職員・学生の方々に、特に研修内容の決定から宿泊の手配にとどまらず、マルメ市を案内してくださった上、自宅で手料理をふるまってくれるなど、私の支えとなってくださった研修担当の Rebecca Arklof さんに心からの感謝を捧げます。



マルメの海の上にあるサウナ施設



マルメ大学外観



スウェーデン料理



マルメ大学学生支援部署から見える景色